

precogとは

国内外で実施される様々な“催事”を、成功に導くための企画・計画・運営をおこなう制作会社です。「制作者」という仕事は、プロデューサー、ディレクター、マネージャー、キュレーター、アドミニストレーター、コーディネーター、オーガナイザー、プランナーなど、カタカナではいろいろな肩書きで説明できるほどの多彩なスキルを持ちます。

私たち「precog」は、世界に広がるネットワークを活かし、アーティストやクリエイター、そして様々な分野の専門家と協働し、彼らのクリエイティビティを芸術としてのみならず国際理解、地域活性化、教育、福祉など異なる領域を横断する形で社会実装していきます。

沿革

2003 設立	ツーリズム大分))のパフォーマンスプログラム・ディレクション、運営
2004～東京都墨田区でイベント「吾妻橋ダンスクロッシング」(主催:吾妻橋ダンスクロッシング実行委員会)実施	2016 「一般社団法人チェルフィッチュ」の事務局業務受託を開始
2005 劇団「チェルフィッチュ」の制作業務を受託開始	2017 「一般社団法人P」「一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL」の事務局業務受託を開始
2005 吉祥寺シアター柿落しプログラム制作、「ミクニヤナイハラブプロジェクト」の制作業務を受託開始	2018 東京都新宿区にリハーサルスタジオ「山吹ファクトリー」開業
2006 法人化し、社名を「株式会社precog」とする	2018 タイ×日本コラボレーション作品「ブラータナー：憑依のポートレート」(共催:国際交流基金アジアセンター)を企画・制作。バンコク初演を経てフェスティバル「Festivals d'Automne à Paris」(パリ・フランス)にて上演
2007 ダンスカンパニー「ニブロール」の制作業務を受託開始	2019 教育普及プロジェクト「コネリング・スタディ」を始動
2007 劇団「チェルフィッチュ」の「三月の5日間」がフェスティバル「Kunstenfestivaldesarts」(ブリュッセル・ベルギー)へ招聘される	2019 「東京芸術祭2019」(主催:東京芸術祭実行委員会(豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)))で劇場「Schaubühne」(ベルリン・ドイツ)の『暴力の歴史』を招聘補助、広報を担当
2008 劇団「チェルフィッチュ」の『フリータイム』がフェスティバル「Kunstenfestivaldesarts」(ブリュッセル・ベルギー)、「Wiener Festwochen」(ウィーン・オーストリア)、「Festivals d'Automne à Paris」(パリ・フランス)の初の国際共同制作で上演される	2019～フェスティバル「True Colors Festival - 超ダイバーシティ芸術祭 - 」(主催:日本財団 共催:日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS)の事務局を担当
2009～2010 栃木県那須町でフェスティバル「スペクタクル・イン・ザ・ファーム」(主催:スペクタクル・イン・ザ・ファーム実行委員会)の制作・運営を担当	
2012 大分県別府市にチャレンジショップ「PUNTO PRECOG」を開業	
2012～2014 「国東半島芸術祭」(主催:国東半島芸術祭実行委員会(大分県、豊後高田市、国東市、公益社団法人	

株式会社precog
〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-24-15
Web: <http://precog-jp.net/> Mail: info@precog-jp.net

Tel: 03-6825-1223 Fax: 03-6421-2744
Twitter: @precogjp Facebook: @precogjp
Instagram: @precogjp note: @precog

イラスト:ハギーK デザイン:LABORATORIES



「新しい価値」を社会実装する。
“表現”の未来をつくる。

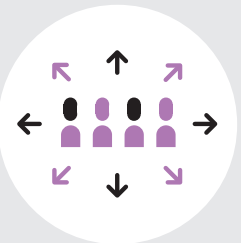
株式会社プリコグ

precogができること



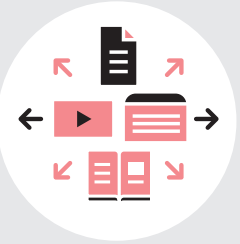
企画・制作

フェスティバルや、公演、イベント等の企画や創作、制作業務を担います。日本国内はもとより、欧米、アジア、南米など海外への展開を計画したり、海外ツアーの企画、制作もおこないます。



人材派遣

さまざまな専門性を持った制作者を、芸術はもちろん多様な分野のプロジェクトへ派遣いたします。また、舞台芸術に関わる人材の育成をおこなっています。(労働者派遣事業No. 派13-314349)



広報・アーカイブ

プレスリリース、ポスター、チラシ、冊子、書籍、映像の作成、webサイトやSNS運用、広告掲載などをディレクションし、上演作品やフェスティバルなどをブランディングおよび集客する広報活動をおこないます。



情報保障・バリアフリー対応

バリアフリー席、託児、手話通訳、音声ガイドなど、観客の多様性に対応する環境を整えます。



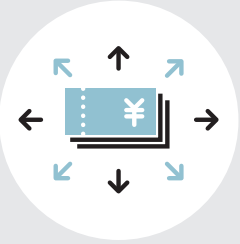
海外展開

海外のパートナーとの国際共同制作事業の立案や運営、海外ツアーのコーディネートやマネジメントをおこないます。また、さまざまな国のアーティストや作品を日本へ招聘します。



教育普及・人材育成

家族や子ども、学生、社会人など、芸術の分野に限らない様々なコミュニティに対してワークショップ、トークイベント、シンポジウム、スクールなどを企画・開催します。



票券・チケットティング

公演ごとに適切な券種区分、価格設定、販売ルートを提案・管理します。



スペース運営

自社で場を持ち、料理家から振付家まで、より多様な方々とのコラボレーションを試みています。現在は大分県別府市にチャレンジショップ「PUNTO PRECOG」、東京都新宿区にレンタルスペース「山吹ファクトリー」を運営しています。

催事に関する
こんな悩み、
解決します

共にプロジェクトを
企画・進行し、大型催事や
各種事業に関する
人手不足を解消します

作品やイベントの
海外展開を企画・設計・
マネジメントします

公演やイベントの
マネジメント・広報・
票券等の制作業務を
おこないます

新しい観客層を開発する
広報・アクセシビリティ設計・
教育普及プログラムなどの
戦略を立て、実行します

precog がやっていること



企画・制作



広報・アーカイブ



海外展開



票券・チケットング



人材派遣



情報保障・バリアフリー対応



教育普及・人材育成



スペース運営



提供: 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

大型催事の事務局運営



都内でのアートイベントはもちろん、地域活性化につながる地方での催事の企画・運営をおこない、事務局機能を担います。舞台芸術のみならず、教育や福祉など他の領域を横断し、多様な視点で催事を設計します。

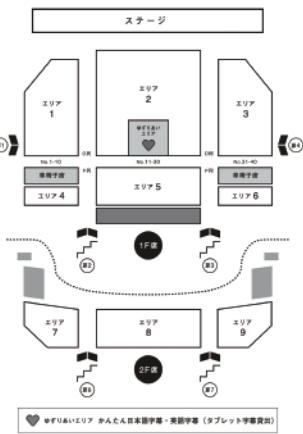
2019年9月～2020年7月に開催されるパフォーミングアーツのイベント「True Colors Festival - 超ダイバーシティ芸術祭 -」(主催: 日本財団 共催: 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS)の事務局

鑑賞サポート企画・制作



さまざまな環境にある参加者が、催事を楽しめるよう工夫しています。本番に使用される道具や美術に触れて作品理解を深める「タッチツアー」を企画・実施したり、音声ガイドの設置、手話通訳、字幕各種、タブレット設置など、参加者がどなたでも催事に参加しやすいようオペレーションを組み、実行します。

2019年10月「ロームシアター京都」で上演されたチェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』に関する「タッチツアー」のようす



提供: 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

子ども向けの教育普及



演劇やダンス、美術などさまざまな芸術に関する体験を"学び"に変換するプログラムを試作しています。子ども向けではない公演でも、上演前後などにアクティビティを付け加えることで、大人と子どもと一緒に観劇しながら"学び"を得る場づくりの手法を考えています。

大人と子どもが鑑賞体験を通じて"学び"を得るプログラム「コネリング・スタディ」のようす



©加藤和也

04

広報印刷物やデジタル広報の企画・運営

05



公演やフェスティバルの広報物では、作品をより深く知るための冊子や、視覚障害者のための点字チラシなど、作品内容やターゲットごとに合わせて様々なコンテンツを制作します。また、公演終了後にも見返せるアーカイブ作成も、おこなっています。

プリログのネットワークを生かしデザイナーやライター、編集者さんとともに効果的な広報物の制作を行っています



©加藤南

海外作品の招聘公演の制作・広報



「True Colors Festival - 超ダイバーシティ芸術祭 -」(主催: 日本財団 共催: 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS)では、ソーシャリー・エンゲージド・アートの第一人者のマリアン・ダイビング・リフレックスをカナダ・トロントより招聘、「東京芸術祭2019」[主催: 東京芸術祭実行委員会 (豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団《東京芸術劇場・アーツカウンシル東京》)]ではベルリン・ドイツの劇場「Schaubühne」の『暴力の歴史』を招聘補助、広報を担当。特に公演広報では、作品への応答として、日常に潜む様々な“暴力”について考える小冊子「暴力を考えるノート」を制作しました。

2019年10月に「東京芸術祭2019」にて上演されたトーマス・オスターマイアー演出『暴力の歴史』(ドイツ・ベルリン)



©国際交流基金

人材育成プログラムの企画・制作



催事における課題を整理し、運営に関わるスタッフに対して必要な研修を設計し、実践を通じて人材を育成しています。また、制作者のみならず、アーティストやクリエイターの育成プログラムの企画・運営を行なっています。

「リ/クリエーション」(主催: SHIBUYA QWS、共催: 一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL)内のプログラムとしておこなわれたグラフィックレコーディング講座のようす



【小冊子】「暴力を考えるノート」東京芸術祭2019 主催: 東京芸術祭実行委員会 【書籍】「憑依のバコンク オレンジブック」出版社: 白水社 【チラシ】チェルフィッチュ × 金氏徹平「消しゴム山」、神里雄大 / 岡崎藝術座「バルバライソの長い坂をくだる話」、ニブロール「悲劇のヒロイン」、チェルフィッチュ「スーパープレミアムソフトWバニラリッチ」 【ウェブサイト】ウティット・ヘーナム × 岡田利規 × 塚原悠也「ブラータナー: 憑依のポートレート」(主催: 国際交流基金アジアセンター 共催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団))

新しい観客層の開拓



催事の既存のターゲットではないお客様や、足を運んだことのないような方が、興味を持つような仕組みを考え、実行します。観客の創造力を可視化するための参加型プログラムとして、ワークショップファシリテーション、グラフィックレコーディング、劇評といった作品にまつわるワークショップを開催するなど、新しい客層への間口を広げています。

2019年6月～7月に東京芸術劇場で上演された岡田利規作・演出「ブラータナー: 憑依のポートレート」のワークショップのようす



東京芸術祭2019 主催: 東京芸術祭実行委員会 ©引地信彦

海外とのネットワーク構築



さまざまなフィールドで活躍する、海外のアーティストやチームとネットワークを構築し、双方の文化理解・交流を深めます。2019年には、ベルー日本人移住120周年を記念する事業の一環として、劇団「岡崎藝術座」が神里雄大作・演出の『+51 アビアシオン、サンボルハ』(主催: 国際交流基金)をベルーとメキシコで上演しました。

2019年12月にベルーとメキシコで上演された神里雄大作・演出『+51 アビアシオン、サンボルハ』(主催: 国際交流基金)



提供: 渋谷スクランブルスクエア

09